平成３１年度（令和元年度）　全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立雑賀小学校）

令和元年9月　日

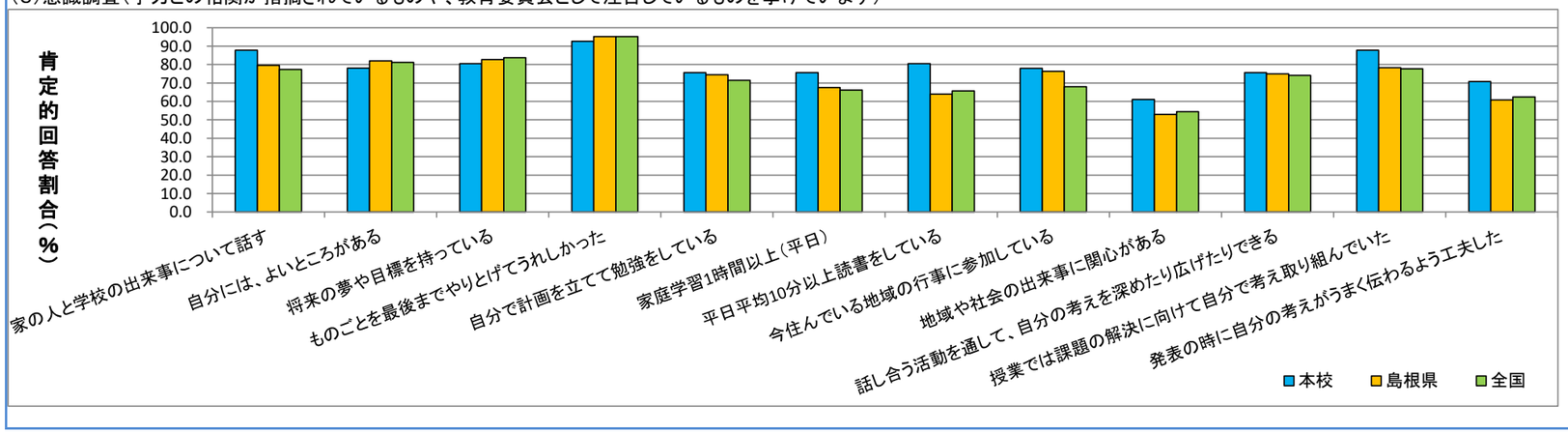
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対　策
国語	○書くことの領域はよい。 ○情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える問題の正答率は平均と比べて高い。 ●話すこと･聞くことの領域の正答率が低い。 ●目的に応じて質問を工夫する問題の正答率が平均と比べて低い。	･新聞なども活用して長文読解を計画的に取り入れ、主述の把握や要約ができるようにしていく。 ･話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる機会を多く持つ。
算数	○数量や図形についての知識･理解はよい。 ○割り算の式の意味の問題や計算の順序の問題の正答率は平均と比べて高い。 ●記述式の問題の正答率が低い。 ●複数の数量から必要な数量を選び、立式する問題の正答率が平均と比べて低い。	･問題文を、生活場面に置き換えたり図で表したりして考えることや文章を分解して問われていることを考えることを行い、正確に読み取ることができるように指導方法を工夫する。 ･自分の考えを最後まで書かせたり、人に説明したりすることを積み重ねていく。

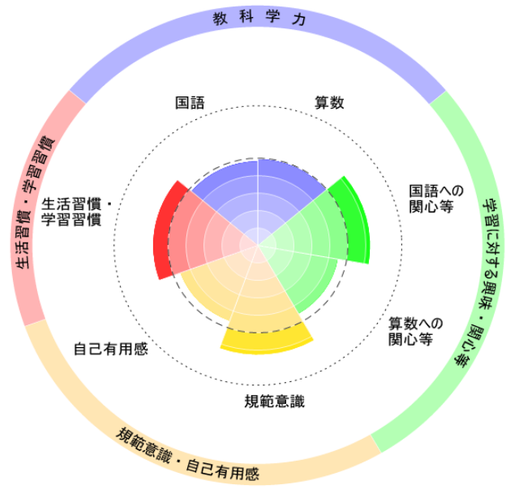
(2)生活意識調査から見られた傾向

成果と課題(○:成果, ●:課題)	対　策
○読書が好きな児童は多く、図書館に行く割合も高い。 ○授業で、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいると思う児童の割合は約9割である。 ●学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思う児童の割合は2/3で平均より低い。 ●学力調査の解答時間が足りなかったと答えた児童の割合が高い。	･学級生活についてのよさや課題に気付くようにさせ、少人数での話し合いを入れるなど児童同士で話し合う時間を大切にする。そして、自己評価や相互評価、取組の価値づけを行い、振り返りを次の活動に生かしていくようにさせる。 ･日常的に長文や複雑な文章に触れるようにさせ、必要な情報と不要な情報を見極めることができるように指導していく。

(3)意識調査(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています)



(4)学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

･平成30年度･令和元年度と理科の授業研究に取り組んでいる。この取組をもとに全教科で、課題が与えられたものではなく、子どもたち一人一人が自分の課題として意識し、その解決に向けて、他者と対話をしたり試行錯誤を積み重ねたりしながら、主体的に問題解決していく授業となるよう工夫する。

･「自分のことばで考え行動できる子ども」をめざし、語彙の獲得に向けた読み書き指導の徹底と6年間の継続した指導を行う。低学年は、字を覚えて知っていることばを増やす。中学年は、辞書を使って使えることばを増やす。高学年は、新聞に親しみ、ことばを広げる。

【参考】

○平均正答率

	本　校	松江市	島根県	全国
国語	62	63	62	63.8
算数	66	66	65	66.6

受検者数　41 人

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示して下さい。

質問番号			本校	島根県	全国
4	1	家の人と学校の	87.8	79.6	77.4
5	2	自分には、よい	78.1	82.0	81.2
8	3	将来の夢や目	80.5	82.7	83.8

9	4	ものごとを最後	92.7	95.2	95.2
17	5	自分で計画を立	75.6	74.5	71.5
18	6	家庭学習1時間	75.6	67.5	66.1
19	7	平日平均10分	80.5	64	65.7
23	8	今住んでいる地	78.0	76.3	68
24	9	地域や社会の	61.0	53	54.5
29	10	話し合う活動を	75.6	75	74.1
35	11	授業では課題	87.8	78.3	77.7
36	12	発表の時に自	70.8	60.8	62.5